



学校だより 3月号

～和・希望・自立～

令和5年3月3日
福岡県立久留米聴覚特別支援学校

～豊かな経験が描く人生の未来図を～ 校長 池添 昌和

「1986年4月、友人のSと私はアメリカ中西部アイオワ州のアニータという小さな町に立っていた。数日前にロサンゼルスでバスに乗り込み漸く目的地に到着したものの、そこには停留所はおろか標識盤も地べたで埃まみれで転がっている鄙びたダウンタウンであった。私は、「地の果て」というのは、こんな感じなのかなと思っていた。Sは、想像とあまりにもかけ離れた様子に茫然としていて、後に、傍らで私が嬉々として辺りの写真を撮っている様子を見て、あまりのショックに気がおかしくなったのではないかと思いきや更に動揺したと言っていた。暫くして、あたりを見回すと古ぼけた食堂が目に入り、中では地元の老人達がにぎやかに朝食を取っていた。私たちは、大注目の中、躊躇することなく店にずかずかに入っていった。二人して朝食にかぶりついていると、髭だらけの爺さんが話しかけてきた。私たちの貧弱なりスニング力と彼らの土着の英語との乖離は甚だしく、その後、お互いほとんど何を言っているのかわからない混沌とした会話が続いたが、Sが目的の場所がここから数十キロ離れたアトランティスという隣町にあることが分かった。それを聞いていた別の爺さんが、自分が連れて行ってやろうという感じになり、私たちは無事彼の孫娘が運転するトラックの荷台に乗り込むことができた。その後、アトランティスを拠点とした私たちは、市長の実家や若い酪農家で厄介になりながら、近くのキャンプ場でのんびり過ごしていた。そんなある日、核廃絶を旗印とした「グレートピースマーチ」が、町を通りかかった。それは、幅広い年齢層で構成された約600人規模の集団で、約10か月をかけてロスからワシントンD.C.まで踏破するものであった。私は、大変興味を持ち、Sと別れて彼らと行動を共にする決心をした。毎日、約25～30キロの道のりを歩き、その日のキャンプ地に到着すると更に地平線の先にある小さな町まで出かけて行っては小さなカフェで薄いコーヒーをすするといふ毎日を過ごしていた。そこでは心もとなさよりも日々流れているという心地よさを感じていた。マーチは、時には隊列を組んで入場することもあったが、普段は朝食後それぞれ思い思いの時間に歩き始め、自分のペースで目的地を目指す。その途中で一緒になった人と他愛もない話をしていく。毎日、様々な人と話をしていると楽しいことばかりではなく、社会問題、宗教や人種差別、ドラッグやLG(BTQ)等の話題に触れることもあった。



昨年度、初日の挨拶の際にふとしたことを思い出した。私の傍らに一人の先生が立つのを目にしたときある一枚の写真が思い出された。マーチの集会で一人の男性を写したもののだが、彼よりも

そばに立っている女性に焦点が当たっている写真である。それまで何とも思っていなかったが、女性が身ぶり手ぶりで何かを伝えようとしているのを目にしたのだろう。「あれは、手話だったのか。」あの時、私が惹かれたのは、彼女の指の動きにあったようだ。「手話」との出会いが意外なところにあったこと、そして、聴覚障がい者への情報共有がなされていたことに改めて驚いた。マーチを離れた後、アメリカ中を転々としたが、それぞれの町で多くの障がいを抱える人の姿を目にしたことを当時は不思議に思っていた。今になってそれは日本よりもはるかに海外においては障がい者の社会進出が進んでいたことの現れであることに遅ればせながら気がついた。旅の先々でその後に繋がることが散りばめられていたとに人生はなんとも油断ならないものだ改めて思っている。」

今年度、校長会等で退職校長として原稿を求められる機会がありましたが、多くの校長先生が教育観やご自身の足跡等について執筆される中で、随筆等何でもいいというので上記の内容でお茶を濁してしまいました。その文章の抜粋を私にとって最後の「学校だより」に寄稿することをどうぞお許しいただければと思います。

これまで「学校だより」をはじめとして多くの場面で挨拶やとりとめのない文章を書かせていただきました。毎回お読みいただいた方には本当に感謝しかございません。ありがとうございました。

さて、スティーブ・ジョブズ氏があるスピーチの中で、「先を見て『点を繋げる』ことはできない。できるのは過去を振り返って『点を繋げる』ことだけだ。だから将来、その点が繋がることを信じなくてはならない。『点が繋って道となる』と信じることで、心に確信が持てるのだ。信じることで、すべてのことは、間違いなく変わるのだ。」と述べています。



私は、子ども達には今よりももっと勉強して、多くの様々な経験をしてもらいたいと思っています。彼らが大人になって振り返った時に、それまでの豊かな経験が、過去から判断して描く未来図よりも彼らの人生をはるかに素晴らしいものになっていることを心から願っています。



【3月の行事予定】

- 1日(水) 登校指導・スクールカウンセリング
- 2日(木) 幼：誕生会
- 3日(金) 幼：ひなまつり会 小：6年生を送る会・遠足
中3：福岡高等聴覚入学選考(3日、6日)
- 6日(月) 幼：入学者合格発表
- 7日(火) 幼：入学は説明会 小6：保護者面談(～8日)
- 8日(水) スクールカウンセリング
- 9日(木) 中：送別行事
- 14日(火) 幼：卒業式
- 15日(水) 小・中：卒業式
- 16日(木) 小：保護者面談(～17日) 中：三者面談(～17日)
- 20日(月) 修了式・パワフルキッズタイム



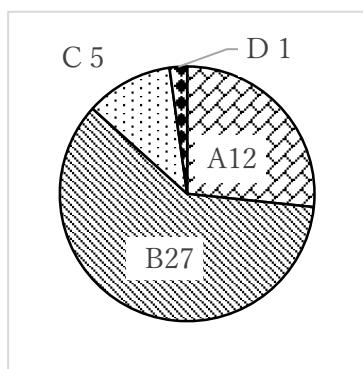
～令和4年度学校教育アンケート結果について～

令和5年2月に実施しました「令和4年度学校アンケート」の結果をお知らせします。

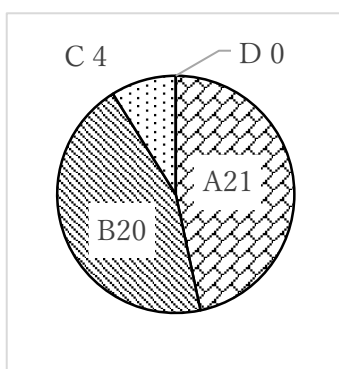
(※グラフの数値は人数を表しています。)

評価:A よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

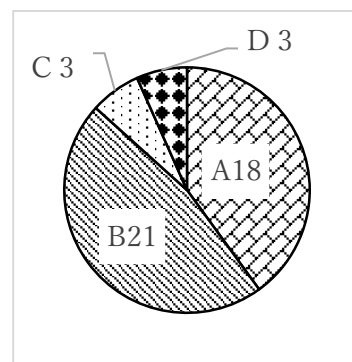
①学校は保護者へ教育目標・教育方針を分かりやすく説明している。



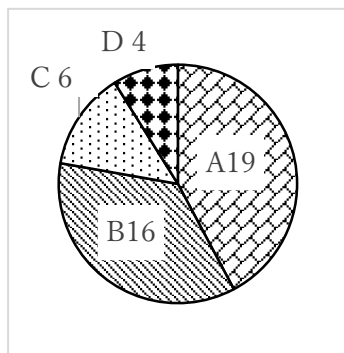
②学校は障がいの特性に応じて教育を行っている。



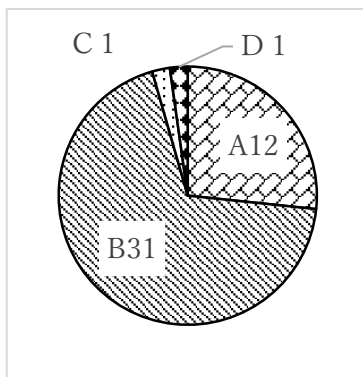
③学校に保護者の願いや要望等、気軽に相談できる。



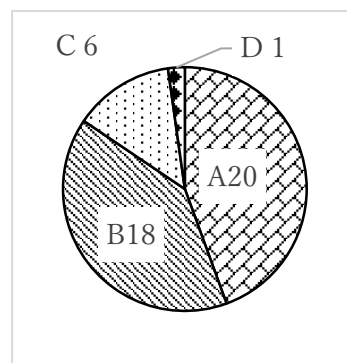
④学校はいつでも授業参観ができる雰囲気である。



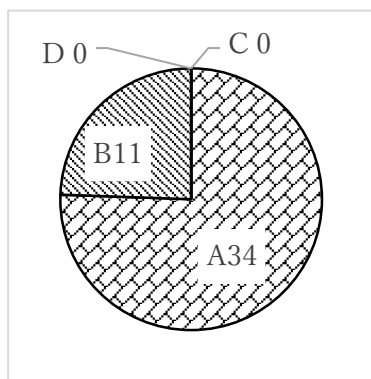
⑤子供のプライバシーが守られている。



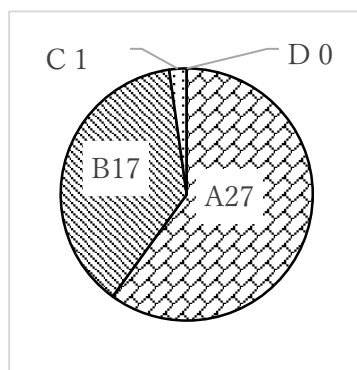
⑥学校は台風や地震、不審者対策等の危機管理ができている。



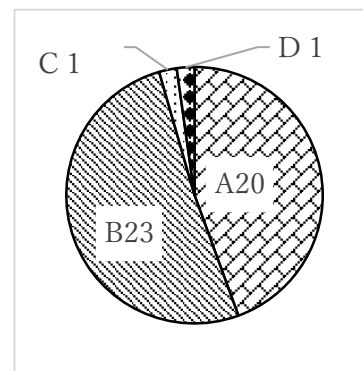
⑦学校給食の献立は工夫されている。



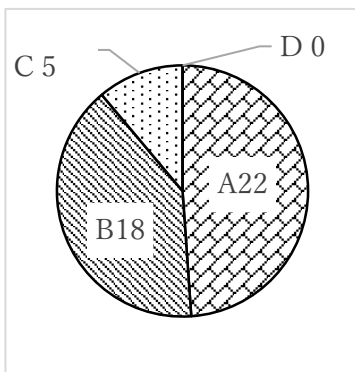
⑧事務室は事務手続きなどに適切に対応している。



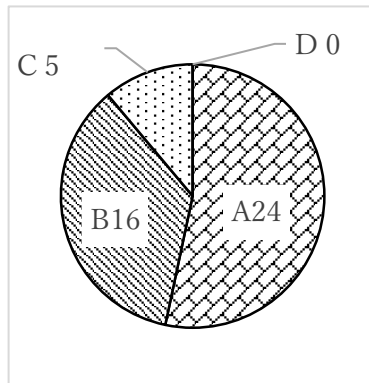
⑨学校はPTA活動を活発に行っている。



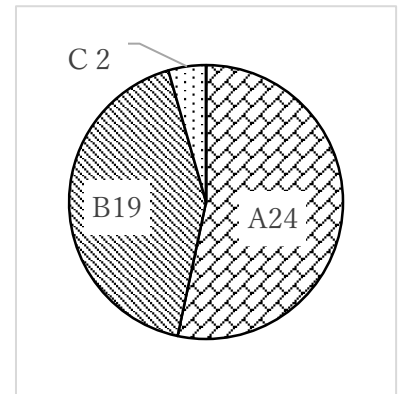
⑩ 子供は「学校が楽しい」、「授業は分かりやすい」と話している。



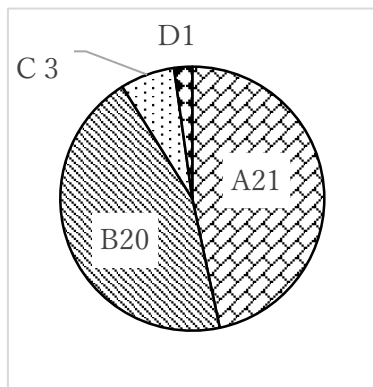
⑪ 教師は、子供に合った内容や方法を工夫している。



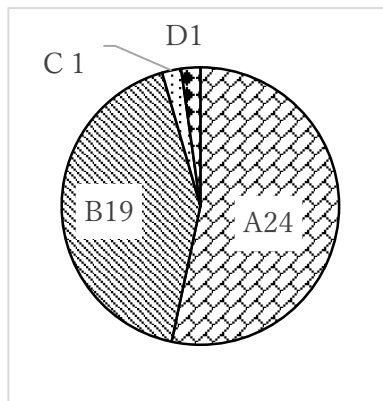
⑫ 教師は子供の意欲や努力を適切・公平に評価している。



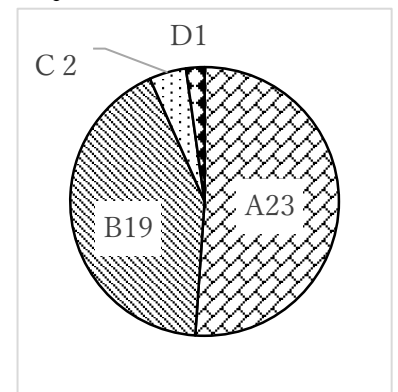
⑬ 教師は子供の様々な行動や考えに適切に対応している。



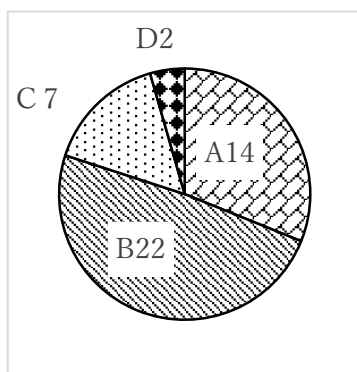
⑭ 教師は通信等によって子供の様子がよく分かるように伝えている。



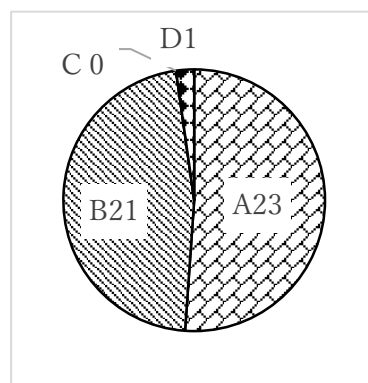
⑮ 教師と子どものコミュニケーションは円滑に行われている。



⑯ 子供同士のコミュニケーションは円滑に行われている。



⑰ 教師は補聴器等に関して適切に対応している。



アンケートによって明らかになったことを次年度の教育活動に活かしていきます。
お忙しい中、アンケートへのご協力ありがとうございました。

